

前節(54ページ)では、母親自身が園・学校との教育の役割分担をどう考えているかを分析した。ここでは、園や学校に要望すること・改善してほしいことを自由記述してもらった内容について述べる。

### 子ども一人ひとりをよくみてる 園・学校を求める母親

表2-5は園や学校に要望すること・改善してほしいことを自由に書き込んでもらったことを分類集計して、総数の多かったものを第10位まであげたものである。

全般的に言えることは、一人ひとりの子どものことをよくみてほしい、個性を伸ばしてほしい、また、そこからさらに先生の数をもっと増やしてほしい(逆にクラスの人数を減らしてほしい)という要望が強いということである(1・3・5位)。具体的な母親の声をいくつか列記してみよう。

「1クラス32~33名で先生一人。とても細やかな教育は無理だと思います。(中略)先生、先生とかけよって話せない子どもはどうやって意思表示をしたらいいのでしょうか!! 先生から声をかけられるのを待っていたらいつになることやら…」(年長女子/第3子/37歳)

「先生の数がちょっと少ないような気がします。先生の負担も大きいでしょうし、すべての子どもにはなかなか目も行き届かないのでは…。まだまだ手のかかる年頃なので、ケガや事故などの心配が少しあります」(年少女子/第1子/34歳)

「今子どもが通っている学校は40人クラスで2クラスです。40人を一人の先生がみるのは大変なことです。子どもが少なくなり、教室も余って空き室が多い現在、なんとか少人数で勉強できたら先生方ももっとよく子どもたちをみることができるといい、きめ細かい教

育ができるのではないかと考えます」(小1男子/第2子/43歳)

また、家庭を離れ、園や学校で子どもがどんな様子で過ごしているのかを知りたい、という要望も強い(第2位)。育児の気がかりの自由記述のなかで、「幼稚園に通いはじめてから、友人同士のかかわりが増えていくにつれ、自分の目の届かない行動が多くなり、後で「こんなことがあった」と近所の人に言われたときの対処のしかたに困る」(年長男子/第1子)と書いている人もいた。それまで、家庭の中で親が子どもの全行動を把握していただけない、園や学校でどうしているのか少しでも知っておきたいというのが親の正直な気持ちなのだろう。こうしたことも一人ひとりをよくみてほしい、できれば園や学校での様子を教えてほしいという要望につながっていくのであろう。

### 「自由にのびのび」という要望がある反面、 学習面や集団生活をしっかりという要望も

保育や教育の内容については、のびのびとした保育・教育を(第4位)という要望が目立った。たとえば、「カリキュラムをこなしていくことよりからだを使ったり、思いっきり自由に遊ぶ時間がもう少しあればいいと思います。マンモス園なので遊ぶ場所が制限されているようです」といったことを訴えている保護者もいた。

一方では、第6位の「もっと学習面の指導をしてほしい」、第9位の「集団でしかできない(親が家庭でできない)しつけをしてほしい」といった、「自由にのびのび」とは矛盾する要望もあった。具体的な記述を紹介すると、「今年、幼稚園の理事長が替わり、子どもたちは好きなことを自分で決めてやればよい、やりたくないことはやらなくてよい、

●表2-5 園や学校への要望 上位10位

順位	項目	総数	園と小学校の親のうちわけ	
			園	小学校
1	一人ひとりの子どもに目が届くようにしてほしい	169	100	69
2	先生はもっと(園・学校での)子どもの様子を知らせてほしい	151	105	46
3	もっと一人ひとりの個性を伸ばす保育・教育を。個人に対応した助言をしてほしい	146	66	80
4	もっとのびのびした保育・教育をして。もっと余裕のある教育を	139	72	67
5	先生の数をもっと増やして。クラスの人数を減らして	97	60	37
6	もっと学習面の指導をしてほしい	86	43	43
7	人間性を成長させる教育を(学力中心ではなく、心の教育を)	66	26	40
8	先生が未熟だ。若すぎる。もっと自己研鑽して	62	40	22
9	集団でしかできない(親が家庭でできない)しつけをしてほしい	60	39	21
10	先生の子どもの影響力が大きい。先生の差が大きい	53	22	31

という保育になりました。幼稚園・学校とは、社会生活や集団のルールを学ぶところだと私は思うのですが」(年長女子/第1子/34歳)といったものがある。

本調査では、幼稚園児の90.1%が私立に通っていた。少子化にとめない、首都圏の私立幼稚園は独自のカラーを打ち出し、親の要望に応えようとしている。学習面や集団生活に慣れさせることに力を入れているところもあれば「自由にのびのびと」をポリシーにしているところもある。親のほうも自分の価値観や子どもの性格を考えて、合いそうなところを比較検討したうえで、入園させている。

しかし、小学生になると、94.6%(本調査)が学区内の公立小学校に入学している。それを考えると公立小学校では、こうした保護者のさまざまな(時には矛盾する)要望に応えなければならないむずかしさがあるといえるだろう。

また、園と小学校への要望を比較してみると、小学生の保護者のほうが「個性を伸ばす

教育を」(上の表2-5、第3位を参照。以下同)、「人間性を成長させる教育を」(第7位)、「のびのびとした教育を」(第4位)といった項目を要望する割合が高いことがわかった。

### その他の要望

「運動会などの行事は日曜や祭日にしてほしい」(小1女子/第3子/36歳)

「仕事をもっているため、子どもは学童保育に通っているが、保育園のように制度が整っておらず、矛盾することが多い」(小1女子/第2子/37歳)

「幼稚園バスで通う範囲が広すぎる(子どもが少なくなったので、子どもの数を確保するのにバスの経路が広がっている)」(年長女子/第1子)

といったものがあつた。いずれも最近の学校の変化や、仕事を続ける母親の増加、少子化で地域の子どもの人口密度が低下していることが背景にある。時代の変化により、親からの要望にも新しいものが加わってきている。